

# 講演会 & ライブ な日々⑩

古川 秀明

## 「浄土真宗仏教婦人会」

京都は西本願寺の近くに、浄土真宗本願寺派教務所の「顕道会館」がある。

教務所とは、本願寺直属のいわば事務所にあたる所で、年間を通じて仏教に関する総会や研修などが開催されている。

この会館はいまから 94 年前の大正 12 年（1923 年）の建物で、その年は関東大震災のあった年でもある。



入り口に3つのアーチがある、とてもレトロな建物で歴史を感じる。

昨年、浄土真宗仏教婦人会さんから「仏教と心」の講演会&ライブをこの顕道会館でして欲しいとの依頼があり、今回で2回目となる。

仏教とキリスト教は私の長年の研究テーマでもあり、喜んで引き受けさせてもらった。

大学では仏教と浄土真宗を学んでいたの、頭の中ではその教義を理解できたつもりでいた。

しかし、何度も何度も生きることや死ぬことの意味に悩み、人生に苦しみ、路頭に迷うような生き方しかできてない。

苦しむ度にいつも私の前に仏教やキリスト教が現れる。

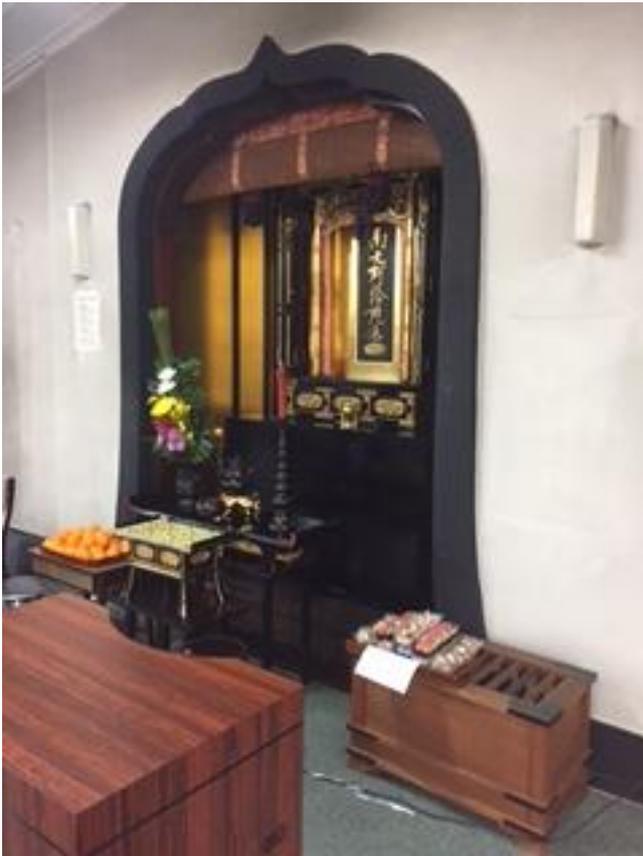
私が望むから目に付くのか、必要だから目の前に現れる必然なのか、それとも偶然なのか・・・。

まさに摩訶不思議であり、ユングなら「それこそがシンクロニシティだよ」と言ってくれそうなことが次々に起こる。

今回もそんな不思議を感じた。

昨年からの連続なので、同じ話はやらない。

どんな話をしようかと思案しているときに、カウンセラーとして相談を聞く中で、連続して「命」を考えざるをえない相談が続いた。



命を考えるのに仏教はとても役に立つ。

信仰はもちろん大切なのだが、仏教哲学も奥が深い。

2500年も前に命の本質である「生老病死」を見抜いた仏の眼力が、「命」というもの考えるのに役に立たないはずがない。

よし、今回はまさしくその「命」の話をしよう！

そう思い立つとすぐに、家中の経典を引っ張り出し、今までの復習を始めた。

まずは浄土の三部教といわれている「大無量寿経」「観無量寿経」「阿弥陀経」の読み直しだ。

う～ん、忘れていたことも多いが、新たな発見もたくさん出てきた。若い頃には見落としていた言葉が、つぎつぎに落ちてくる。

そこから派生して、「維摩経」「法華経」「般若心経」「華嚴経」「観音経」・・・。

まるでネットサーフィンのように仏の言葉が降りてくる。

なんとか1時間で収まるように、しかもわかりやすくまとめた。

改めて学びだすと、まさにそのことに関連した相談が毎日次々に寄せられた。

まるでその相談が来る事を見越したように、様々な仏教経典から言葉が降りていた。

学ぶ、ひらめく、実践する。学ぶ、ひらめく、実践する・・・。

この繰り返しの中でなんと「言葉」と「曲」も降りてきた。

あつと言う間に「御仏の子」という仏教賛歌ができたのは、講演の前日だった。急いでギターの弾き語りにアレンジして、当日に披露させてもらった。



講演も歌も、とても良かったと言ってもらえた。  
前ならその感想に小踊りする気持ちになったのだが、今は違う。

褒められて嬉しくないわけではないが、この歌に「自分」がない。

全てが仏の言葉や旋律を借りているだけである。

聞いている人は、そんなことは知っているかもしれないし、知らないかもしれない。

だけど、講演や歌で本当に何かを感じてくださる人がおられたとしたら、それこそ私の「自力」ではなく仏の「他力」そのものに違いない。

仏の言葉のメッセンジャーとして、自分の命が役立ったのかもしれないという喜びは、私にとって他に勝る。

教会では神様を語り、歌う。お寺では仏様を語り、歌う。

自分が節操のない宗教乞食であることは否定しない。

だけど、自分の信じる宗教だけを守り、人を殺める信心深い人よりも、クリスマスケーキを食べた翌週に初詣に出かける寛容さが好きだ。

若い女優さんが出家したというニュースがメディアを賑わせている。

彼女に何があって出家したのかは知らない。

この国は20代の若者が自殺する確率が、他の国と比べて非常に高い。

出家するということは、今までの自分から生まれ変わるということ、つまり、過去の自分と決別して仏の道を歩む新しい人生を歩くということだ。

自殺という形で己の肉体を滅ぼさずに、命ある身体は今のままで、精神だけを新しく生まれ変わらせる。

芸能界というブラック企業の本質に気が付いて、そのレールから降りることはそんなに間違っただけではないと思う。

もちろん、その行為そのものが、こずるい大人達による何かの企てであるかもしれない。

だけど、これだけ若者の自殺者が多いこの国で、「自殺」ではなく「出家」を選択した彼女を応援したい気持ちになった。

「全部、言っちゃうね。」の後は「やっぱり芸能界に戻っちゃった。」になるかも知れないが、それでも生きていて欲しいと思う。

彼女の周囲に、これからも仏の教えを正しく説いてくれる優しい家族や大人がいることを祈りたい。

自分のこれからの講演会とライブの役割を今回改めて気付かせてもらえた。

シンガーソングライター  
ふるかわひであき